

(1) 1992年1月20日

燎 原

第82号



早春の比良山 山下正子

一九九一年は、国際的には、あの「湾岸戦争」、そして世界の耳目を驚かした、ソ連邦の解体という、激動に見舞われました。国内では、バブル経済の崩壊、PKO法案をめぐっての自民党体制の動搖、「米自由化」に対する国民的反対、環境を守る市民運動の発展など、顕著な動きがみられました。

九二年新年早々の米ブッシュ大統領の訪日での、あからさまな「対米貢献」の強要と政府の対応、また、自民党政治の「金権腐敗」の新たな発覚など、新しい政治への国民的要求が強まる状況が展開しています。

新年にあたって、会員、読友の皆さんから、年頭所感の文章をいただきました。82号に特集してお届けします。十年続いているこの「燎原」をさらに充実させ、「京都の民主運動史を語る会」の一役の発展を計り、平和と民主主義の運動に寄与したいと思います。掲載は五十音順にさせていただきました。

## 新年にあたつて

浅川亨

去年は内外にわたつて色々な事件がありました。世界的にはソ連の崩壊と東欧諸国における共産党の指導力の弱体化、それにその影響を受けまいとする中国の動きがあります。一方我が国では普賢岳の噴火と台風十九号による東北地方特に青森県の林檎の被害が不景気の中で特に関心をよせました。

年初早々ブッシュ大統領が参ります。これは單なる訪日ではありません。アメリカは未だに不景気から脱出していません。日本に対しても、米や自動車関係を中心に、アメリカの不景気脱出の一環として、

謹賀新年

て、その一翼をになわせようとするものです。

この彼の意図に対し、宮沢総理は出来るだけその期待にこたえ

ようとしてすることを発表しています。私は既に第一線から退き、既に十年をすぎています。実際に日

本の不景気はどのようなものであるかよくわかりません。議員年金や軍人恩給、それに家賃収入で生

活していますから、不景気の実態は身にしみて感ずるとはいませ

んが、新聞紙上やテレビで報ぜられる労働者の鬱いとその成果からも聊か感ずることは出来ます。

年の不景気についても、色々

## 新春思いつくまま

稻田達夫

昨年は湾岸戦争に始まり、雲仙・普賢岳をはじめ世界各地の火山の噴火、ソ連邦の解体、日本、

アメリカなど経済の行きづまりなど自然も政治も経済も崩壊の年となってしまった。世紀末とはいえ、何か地

球、資本主義、社会主義のあり方にそれぞれ警告しているようでもある。また偶然の一一致ではあろう

が、昨年は「満州事変」から六〇年、太平洋戦争から五〇〇年、安保

条約から四〇年とい

いわれておりますが、本年の後半期には景気も上向きになるだろうといわれていますが、果たしてどうででしょうか。現在政府や金融機関の出している政策は働く者丈でなく、特に私の様な老人にとっては益々生活が苦しくなるようなものになる事が予想されます。これを打開するためには予定の参議院選挙で民主勢力特に共産党が大きく躍進する事が何よりも必要だと思います。こんな事を言つてもピント外れかもしれません、どうも今の党は、小生が労働運動の末端にいた頃からみると、おとなし

いように思われます。私は議員をやめてから、海外旅行を十二回して参り、そのなかで、イタリアの労働運動やフランスの党の活動の一端を、それこそ針の穴から天をのぞくようなものだとは思いますが、みて参りました。一寸みただけで労働運動や党の街頭演説等をみても、日本と大分違うなあと思いました。ともあれ日本では大衆に党がとけこむ事が必要だ、といふ事を思いしらされました。間近に迫った選挙、八十をこした老人も皆さんのあとについていきたいと思っております。(一月一日記)

さて今年はサル年、サルといえば猿知恵、猿真似、猿芝居と余りよいたとえではなく、昨年、芸術祭で表彰されたのも人間の太郎の方でサルの次郎ではなかった。しかし太郎は表彰されるべきは次郎の方だが、サルには国籍がないからだろうとなぐさめていたともいう。サルの方から云わしむれば、人間

は戦争や開発で自然を破壊し、関係のない人間まで殺すというサル以下の動物で、同じ仲間、靈長目の恥ともいいたげで、「反省」のしぐさも警告の一つのようにも見えてくる。

とにかく最近の傾向は政治も経済も、その体制と運営のあり方のみをとりあげ、その土台にある哲学や思想の基本にふれていないようであり、しかも政治も経済も行政の中に埋没しつつあるようだ。私の中国での戦中、戦後の体験からすれば、財閥、天皇制、反共が軍国主義の大きなささえになっていたが、戦後、京都府庁で労働関係で働く頃には、政府も地方自治体も、軍国主義の追放、財閥の解体、農地解放、コメの増産、教育の民主化などは行政の基本方針であり、新憲法の精神でもあったものの、それから半世紀、変わるもの、このままでは太平洋戦争における二千万、三千万とも云われる犠牲者の死を何といつて説明すればよいのかと思う。

しかし京都は平安の都といわれ、日本の夜明けは京都からといわれて久しく、平和と民主主義と自治の基盤は変わっていない。京都は戦争に結びつく産業が少なく、

#### 14. 宗教、芸術を中心とする伝統産業や織維産業が多く、大企業

が少なく、中小企業が殆どで、しかも大学、社寺、西陣をはじめ京都市、南山城地方など大名が支配しているなかった地域などは、自治の意識が極めて高いといふべきが、それが伝統的土地柄である。危しげなく、過去を現代に生かし未来を築くという、京都の民主運動史を語る会の原点を見つめ、平和と民主主義、地方自治の確立をめざしつつ、立上って生きるか、押しつぶされて死ぬかの分れ道にさしかかった新しい年。会員の皆さんのご健康とご活躍を期待しつつ、二十一世紀にむけての道を切り開きたいものである。

十一世紀にむけての道を切り開きたいものである。

中国に起った「文化大革命」は、もう記憶にない人が多いかも知れません。しかし、「文革」の起つた一九六六年に、北京大学で陸平学長を反対・反社会主義として追放することを主張しました。町を行く人は皆、赤い表紙の手帳形の「毛沢東語録」を胸のポケットから覗かせ、行事の初めには先づ語録の一節を朗読するのが常でした。「語録」は毛沢東の著作の中から抜き出したものです。毛沢東の著作を捨象して絶対化したものが、彼が書いた時の具体的な条件や

中国に起つた「文化大革命」は、もう記憶にない人が多いかも知れません。しかし、「文革」の起つた一九六六年に、北京大学で陸平学長を反対・反社会主義として追放することを主張しました。町を行く人は皆、赤い表紙の手帳形の「毛沢東語録」を胸のポケットから覗かせ、行事の初めには先づ語録の一節を朗読するのが常でした。「語録」は毛沢東の著作の中から抜き出したものです。毛沢東の著作を捨象して絶対化したものが、彼が書いた時の具体的な条件や

## 「文革」を体験して

岡 谷 元 治

六月三日、北京大学と北京市の党委員会が改組され、陸平学長や彭真市長が解任されました。

こうして「文化大革命」は本格的に始ましたのです。「文革」ではなく、北京大学だけでなく、各学校もこの日から約二年間休講状態が続きました。

教員や学生は政治討論を始め学内壁新聞合戦に入りました。北京市委員会は工作組を組織して「文革」の指導に当ると発表しました。壁新聞は新聞全紙大の紙に毛筆で書いた文章ですが、教師や各級幹部を烈しく弾劾するもので、所謂実権派が標的でした。

これを建物の壁という壁すべてに貼り巡らし、樹の枝から枝へ張り渡した綱には、アンペラを釣り下げ、これにも一ぱい新聞が貼つてあります。



新聞の内容を検討し討論する者が集まって、北京大学には一日に二万人以上集まつたと伝えられた。

北京に始まつた「文革」は全国に波及すると共に、各地の大学から交流と称して、代表が北京に集まります。彼等にとって汽車は優先無賃乗車出来ますし、食事は各地の機関が無償提供、夜は教室が無料宿舎です。地方の学生には憧れの北京への無錢旅行の好機でした。選に漏れた者は「長征隊」と書いた旗を掲げ、少人数の隊を組んで、徒步で北京に向う。彼等も長期のヒッチハイクでした。

八月になると天安門前で「文

革」慶祝大会があり、紅衛兵が現われました。彼等は少年少女の群でしたが、「四旧打破」と言つて、思想、文化、風俗、習慣などを彼等が旧いと思う物は總て打ち壊しました。「造反有理」、「打倒実權」が口実でした。

八月に日本で開かれた原水禁大会で、日本原水協の方針に反対して、退場した代表団を、支援する会を北京で開くなど、日本共産党や日本の民主団体に対する干渉や、毛沢東思想の押しつけが強くなり、北京在住の日本人の中にも「文革」に批判的な者と中国盲從派の対立が次第に激しくなり、盲從派は暴力に訴える程でした。

## 人間喪失・浜名海兵团にて

奥 村 和 郎

懐」とするところであった。

浜名海兵团に入団したのは、繰上げ卒業させられた一九四四年（昭和十九）一〇月、緒戦の勝利からガダルカナル島での「転進」（敗北）や、七月にはサイパン「玉碎」が報道され、「撃ちてしまん」のかけ声もようやく色あせた頃であった。学間に打ち込むことなどは「非国民」のそしりを受けた時代に、軍人は「男子の本

た

汁一菜、激しい連日の訓練で空腹に耐えかねた若者たちは、まさに餓鬼そのものであった。班内の誰かが病気入院すると、一人当たりばかりの板の間の廊下に正座させられた。新居町から弁天島への車窓からの眺めは、いつも私を半

世紀ほど引き戻す。

食事は劣悪を極めた。麦飯に一汁一菜、激しい連日の訓練で空腹に耐えかねた若者たちは、まさに餓鬼そのものであった。班内の誰かが病気入院すると、一人当たりばかりの板の間の廊下に正座させられた。新居町から弁天島への車窓からの眺めは、いつも私を半

世紀ほど引き戻す。

越えて四五年、訓練は一月一杯である。初めて外出が許可された。短剣を下げた海軍技術見習尉官としてである。新居町の人々は物資の乏しい中で、私たちを心から接待してくれた。それぞれの民家で、私たちは「シャバ」の空気をふんだんに吸い、ふかし芋をたらふく頬張り、それでも飽き足らず、薬屋に立ち寄ってビヨウヘルミンという胃腸調整剤を外套のポケットに捩込んだ。喉元までつまつたままでは夕食を取ることは出来ない。指導教官は食事毎に各班を回り、点検を兼ねて会食するのである。私たちは夕食直前にそれぞれ便所へいき、二本の指で舌を強く抑え、ゲーッと吐いてなに食わぬ顔で食卓に向かう。

「御馳走さまでした」と一番食事の遅い私が立ち上ると、指導教官は満足して軍人勅諭の朗読など「温習」計画を指示して自室に

しかし、黒煙を吐いて鉄橋を西へ駆進する機関車に、鄉愁抑え難くしばし見とれていたため、帰舎した頃であった。新居町から弁天島への車窓からの眺めは、いつも私を半

世纪ほど引き戻す。

越えて四五年、訓練は一月一杯である。初めて外出が許可された。短剣を下げた海軍技術見習尉官としてである。新居町の人々は物資の乏しい中で、私たちを心から接待してくれた。それぞれの民家で、私たちは「シャバ」の空気をふんだんに吸い、ふかし芋をたらふく頬張り、それでも飽き足らず、薬屋に立ち寄ってビヨウヘルミンという胃腸調整剤を外套のポケットに捩込んだ。喉元までつまつたままでは夕食を取ることは出来ない。指導教官は食事毎に各班を回り、点検を兼ねて会食するのである。私たちは夕食直前にそれぞれ便所へいき、二本の指で舌を強く抑え、ゲーッと吐いてなに食わぬ顔で食卓に向かう。

「御馳走さまでした」と一番食事の遅い私が立ち上ると、指導教官は満足して軍人勅諭の朗読など「温習」計画を指示して自室に

戻る。九時就寝。私は毛布にくるまりながら、昼間の胃腸錠剤をそっと取り出して、あまり歎音を立てないようにポリポリ食べ始めます。真っ暗なあちこちから幽かな音がする。ひと塙はまたたく間にあります。こうして翌朝は下痢症状に悩むという次第。当時、新居町の薬価が暴騰したということを聞いたのは戦後のことであつたろうか。何ともお恥ずかしい「うな

音がする。ひと塙はまたたく間にあります。こうして翌朝は下痢症状に悩むという次第。当時、新居町の薬価が暴騰したということを聞いたのは戦後のことであつたろうか。何ともお恥ずかしい「うな

## 私の原点と現在

龜田得治

私は、一九三三年（昭和七）四月、東大法学部に入学した。当時、私はキリスト教に打ち込んでいた。しかし教会で牧師の話を聞いても、当時の大恐慌下の日本の社会的諸問題にふれることができない、不満に思っていた。

そんな時、私はキリスト教の牧師であって、盛んに社会活動をしておられた賀川豊彦さんにお会いできた。私は早速、キリスト教会の在り方について不満を述べた。

賀川さんは、私の主張に暖かい理解を示してくれた。それ以来、私は賀川さんと話す機会を多く持つようになつた。賀川さんは、当時

日本の農業と農民の問題に打ち込

んでおられた。教会の説教の中にその話が度々出て来る程だった。私は次第に、当時一番困つて

いる農民の力になることが、私のクリスチヤンとしての使命だと確信するようになった。そのため、私は弁護士にならうと思い、大学三年の時に司法試験を受けて合格し、翌一九三五年三月末東大を卒業すると同時に、迷うことなく、賀川さんの紹介する三輪寿壮法律事務所に入り、弁護士となつた。

そして同年六月から、小作争議の盛んな新潟県の小作農民の応援に出かけた。

旧日本の精銳軍の幹部もこうして非人間性で鍛えられ、その延長上に現在の自衛隊があるといつても過言ではないでしょう。自衛隊の海外派兵を狙うPKO法案は、憲法を踏みにじり、この思想的潮流を新しい条文でカムフラージュしたものに外ならないのでしょうか。（一九九一・一二・二七）

はらぬ浜名湖物語でした。

旧日本の精銳軍の幹部もこうして非人間性で鍛えられ、その延長上に現在の自衛隊があるといつても過言ではないでしょう。自衛隊

の運動をやるには、法律のほか、もっと経済、社会の勉強もしかりやらねばならないと考える

時代にできたもので、それだけではすまないと思い、いろいろの資料を読んだ。勿論その中には、社会主義のものもあった。又運動の

以上が、その後五七年間続いている私の社会運動の始まりである。

私は農民運動に入つてから、本

の運動をやるには、法律のほか、もっと経済、社会の勉強もしかりやらねばならないと考える

時代にできたもので、それだけではすまないと思い、いろいろの資料を読んだ。勿論その中には、社会主義のものもあった。又運動の

あい間に、先輩の人々の意見を聞いたりした。

このことは現在も続いている。

われわれの運動は、現在の社会をもその話が度々出て来る程だった。私は次第に、当時一番困つて

いる農民の力になることが、私のクリスチヤンとしての使命だと確信するようになった。そのため、私は弁護士にならうと思い、大学三年の時に司法試験を受けて合格し、翌一九三五年三月末東大を卒業すると同時に、迷うことなく、賀川さんの紹介する三輪寿壮法律事務所に入り、弁護士となつた。

主張を唱える人は少ない筈である。

現在の自民党政治は、外政面でも内政面でも行き詰り、国民との矛盾を深めている。然るに共産党以外の野党は、自民党に近付き、連立政権を夢みている。これでは日本の政治は良くならない。革新統一戦線こそが、その解決の鍵である。（一九九一・一・七日記）

ない。横暴にふるまう大資本を民主的に規制する必要性についても、異論を唱える人は少ない筈である。

われわれは、今こそ、平和、民主主義、くらしの向上のために、草の根からの協力、共同の運動を盛り上げねばならない。これこそが人類の歴史を、進歩の方向に動かして行く原動力だからである。

現在の自民党政治は、外政面でも内政面でも行き詰り、国民との矛盾を深めている。然るに共産党



おねがい  
『燎原』九一年度会費未納の方々には、失礼ですが、振替用紙を同封させていただきました。  
どうぞよろしく。

## 特高の取調

齊藤雷太郎

昭和十二年十一月八日の早朝、五六人の特高が来て、私を下鴨署に連行した。来るのが来たという感じであった。折角、ここまで育て上げた『土曜日』もこれで終りだと感じた。

警察にひっぱられると云うことは、権力が自分の身の上に、直接ふりかかったということで、これは死が突然襲つて来たことと同じで、絶対的なものである。個人や周囲にあたえる影響や、そのためにはどんな悲劇がおこるうと、権力の目的のためにはおかまいなしである。

ある日、取調室によばれた。五六人の特高がいて、十四、五通の郵便物を渡された。外部と隔離される筈なのにと不審に思ったが、受取つてしらべた。購読申込みの振替通信書三、四通と、はがきと、オビ封した交換出版物であった。一つ一つ開封して見ていくと、非法出版物が出てきたのである。オヤと思って特高に渡した。今までそのような出版物は受け取つていないのであるから、郵

便物をしらべる私の動作は自然であつたのであろう。特高はこのことについて、強い追及はしなかつた。後で考えると、私の背後関係を知るためのトリックとも思われるるのである。彼等は、いろいろな

昭和十三年春頃起訴猶予で釈放

手段を使うものであると思った。「共産主義」について書けとか、何度か力革命について書けとか、暴書かされたが、私はキリスト教系の小学校四年中途退学で、親にも手紙をかかない位で、字もへだたし、文章もなつていないうらいなので、特高もあきらめたのか、あまりくどく云わなくなつた。

昭和十三年春頃起訴猶予で釈放

## 新年にあたつて

塩田庄兵衛

旧年、私は古稀を記念して、小著『河上肇』(新日本新書)を仕上げたところ、寿岳文章先生・杉原四郎・一海知義教授などの敬愛する碩学から、過分な評価を新聞・雑誌に寄せていただき、また河上先生の御長女羽村静子夫人をはじめ既知・未知の方々から温かい感想が文字通り殺到して幸福であった。

一方その間に、私は旧ソ連をはじめとする東ヨーロッパの国々に、仕事でたびたび出かけ、まがいものの「社会主義」が矛盾を深めつつある実情にも心を痛めつつ、いくらか触れる経験をもつた。旧年八月十九日には、ゴルバチヨフがクーデターで監禁されたときいたクリミア半島の上空を、

それとは知らないでパリに向つて快適に飛行していたという偶然をも経験した。

一言でいって、一九九一年が人類史に大きな刻み目をつけた年で、あつたことは間違いない。そこで「資本主義」の出番となろう。ブッシュ大統領は再選をめざす政治ショーのために、経済圧力をかけに日本に押しかけてきて、過労死のまねごとまで演じてみせた。

さしあたりいえることは、悲劇の第一幕が「社会主義」であったとすれば、これからの中二幕は「資本主義」の出番となろう。ブッシュ大統領は再選をめざす政治

手段を使うものであると思った。

された。三ヵ月程休んで、新京極の花月劇場の剣戟劇團に入つた。

十一ヵ月程はたらいて退団。のき店を借りて、くだもの店開店。戦

後現在のところを借りて、古物店を開店、どうにか喰べている。子供長男次男、マゴ四人、家内は七十八、私は八十九。ボケ老人にならぬよう、心がける毎日です。

めでたし、めでたし。

日本だけが四海波静かというわけにはいかないことは自明である。そして私たちにはきびしく歴史にためされることになるであろう。

社会思想史・社会運動史の研究を自分の生き方と密着させて課題としてきた私は、河上肇を一つの焦点としてつづけてきた近代日本社会思想史の整理に目鼻をつけた。そして、やがて半世紀に近くなった戦後史に、直接かかわって立場から再検討を加えたい。そのさいのスローガンは、「未来のために過去について」である。

同時に私は、核兵器廃絶という全人類史的課題に、一日も早く決着をつけるための努力をつづけたい。さらに、日米安保条約という侵略的軍事同盟が、いかに時代錯誤の危険物であるかを、国民の大多数が理解し、一日も早く廃棄処分する日を迎える。

このように、私たちが力を合わせれば実現できるはずの歴史的大事業と顔をつき口をはせていくのが、一九九二年だと私は実感する。

## 新 年 に あ た つ て

寺 前 い わ お

新年おめでとうございます。

例年のように、暮には、京都市内、乙訓、宇治などの消防・清掃関係で働くみなさんの激励にまわった。正月一日は、早朝から、我々の先達者である山宣さんのお墓をはじめ、虎さん、善さん、国領さん、河上肇さんのお墓参りをした。一日おいて、京都解放戦士のお墓にも行った。もう二十有余年にわたってやっていることだが、毎年会う人達に変化があるから、こちらの姿勢も変り、年末年始のこの活動は不老長寿の役割りにもなっている。今年は三つのことに気付いた。

先づ消防の分野だが、どことも放火が圧倒的に火災の原因となっていることだ。世情不安を示すものだろう。次で天ぶらによる火災。それだけに、どこの家にも消化器がおかれているということだ。又昨年、救命救急士制度が法律でつくられたことから、この養成のために、全国から中央へ学生派遣がなされている。府県から一名乃至二名だから、期待が大き

を知り、歴史を語ることは、社会発展に大きな役割りをなうことになると思うが。

ところで、新年の「赤旗」にの議長のインタビューには敬服させられた。世間で「社会主义の時代は終った」と宣伝される中で、「二十世紀は、民族自決権が世界的に定められた時代だ」、「人民主権、民族单独で養成学校をつくるべきではなかろうか。第二に清掃分野のことだが、ダイオキシン対策が、京都西工場でとられたことを知ったが、殆どのところは、依然放置されたまま。それでいて批判の声が市民的に拡がっていないということに驚いた。「知らぬが仮」になっているのだろう。第三は京都の先達者たちのお墓が、どことも大ていはきれいに掃除され、お花がかかるようになっていることである。先達者たちが亡くなつた当時は、生活に追われてそんなところでもなかつたのだろうが、今では孫の時代、家の誇りと思つてくれるようになつて来たのかとうれしくなる。それにしても今日の社会運動家の大せいが、そのお墓がどこにあるのか知らないのに驚かされる。春になつたら、「京都の民主運動史を語る会」あたりからでも呼びかけて、「墓参ハイク」で

(日本共産党衆議院議員、国会対策委員長)

## 燎原

## ソ連を想起

羽原正一

私は今年九十の歳を迎えました。昨年、私の一番大きな関心事は、ソ連が六十九年の歴史を閉じた問題でした。日本共産党は、この歴史的過程を「ソ連と戦うこと三十年」と題して『赤旗』紙上で詳細に連載致しました。ソ連の大國主義、霸権主義の破綻を喜んだことでした。

私はこのソ連の科学的社会主义の道を逸脱した、大国主義の破綻を喜ぶと同時に、私には怒りと、もう一つは悲しみの感情が溢れ出ました。それは六十数年前の私に戻ります。思えば、一九一七年十一月、レーニンによって、地球上六分の一を有するロシアの地上に、社会主義国家が誕生した事でした。英米日等々の資本主義国家は、この革命に驚き怖れ、東西より軍事干渉を行って、これを壊滅せんとしましたが、ソ連国民は一致団結して之を退け、雄々しく社会主義の道を邁進し、全世界の労働者、農民に大きな光りを与えた。

私は唖然とし、茫然として、はげしい怒りと、そして深い深い悲しみに打ちひしがれたのでした。

当時、私は日本農民組合香川連合会に所属し、農民運動に参加致して居りましたが、ソ連のこの快挙に対する列国の干渉を不当として、「ソ連を守れ」という合言葉

の下に、高松市の街頭を農民と共にデモを敢行した事でした。

「アジアにつづく北欧の、ロシアの民を見ゆずや、專制の雲切りひらき、自由の光仰がん」と唄い、また、「フランス人は愛す旗の光、ドイツ人はその歌唄う、モスコーカラスに歌ひびき、シカゴに歌声高し」と歓喜の声をあげて、デモを敢行した思い出がありますが、勿論、官憲は私達に、「汝等は国賊だ、ソ連へ行け」と叫んで、おどりかかって来て、乱闘した記憶があります。

レーニンの死後、ソ連は資本主義帝國主義者の不斷の圧迫をうけ、軍事大國となり、大国主義、霸権主義の道を辿り、それは遂に国民の経済関係の甚だしい立遅れとなり、遂にソ連国家の解体となり、レーニンや、ゼルジンスキイ巨像が民衆によって地上に

## 核兵器のない平和な世の中と美しい自然を愛する子孫に!

福岡精道

「燎原」の同志のみなさんあけましておめでとうございます。

昨年は、国際的には湾岸戦争ではじまり、ソ連邦の消滅で年が暮れるという激動の一年でした。さらには、国内的には自民党政権の党独裁を企む小選挙区制の策動や憲法違反の自衛隊海外派兵のためのPKO法案に反対して果敢にたたかった一年でもありました。

この自民党政権のなりふりかまわぬ憲法改悪の攻撃は、国民との矛盾を深め、今までのやり方は政権が維持することができないという、自民党が世紀末をむかえていることの何よりもあらわれです。

昨年は、核兵器をめぐって大きな前進がありました。戦後四六年間つづいた冷戦時代が東側の軍事ブロック崩壊によって終止符をうつなかで、核兵器上

引き下され、ハンマーと鎌の名譽ある国旗が破棄されるに至って、私は唖然とし、茫然として、はげしい怒りと、そして深い深い悲しみに打ちひしがれたのでした。

私は、今、ロシア国民に対して、もう一度、レーニンの示した、「科学的社会主义の道」に立ち直って欲しいと念願する一人であります。

私は、今、ロシア国民に対して、もう一度、レーニンの示した、「科学的社会主义の道」に立ち直って欲しいと念願する一人であります。

私は、今、ロシア国民に対し

て、軍事同盟なくせ」の声が内外で高まりました。こうした世界諸国民の世論と運動を背景にして、米ソの大規模核兵器削減提案、朝鮮半島の「非核化宣言」、フィリピンの米軍基地の撤去など大きな前進がありました。

この前進をつくりだした原動力は、原水爆禁止運動と原水禁世界大会が提唱して来た「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名と第五の「平和の波」の国際的ひろがりです。清水寺での、この「アピール」署名が昨年末で二〇万名を突破しました。

しかし、核兵器固執勢力は、ブッシュの原爆正当化発言にみられるように、ひきつづき核兵器にしがみつき、核兵器使用の意図をすててはいませんが、核兵器と軍事同盟強化の口実であった「対ソ脅

威」論が通用しないまま、いままでどおりの対応ができないものあきらかです。

こうして核兵器固執勢力のかかえる矛盾は、一方で核兵器廃絶が現実的課題になってきていることを証明しています。このためにも核兵器の全面禁止・廃絶の国際協定を実現する国際的共同行動をいつそう強化することがもとめられています。このための被爆国日本の責任は重大だといわなくてはなりません。

また、今年は九〇年代から二十世紀につながる日本の進路に重大な影響をもつ参議院選挙がおこなわれます。

さきの日米首脳会談ではマスコミは経済問題のみをとりあげていましたが、その会談で発表された「東京宣言」は、日米安保条約の世界同盟化をうたい、自民党政権は世界の軍縮流れに逆行して、在日米軍基地の強化と駐留経費負担の増額を約束しました。これらは国民との矛盾を一層拡大するでしょう。いま、多くの国民は自民党政権の転換を望んでいます。今度の参院選は革新多数派の展望をくる歴史的チャンスです。

憲法の理念をまもることは仏教

の三念をまもることです。仏教の理とはすなわち科学的社会主义の理念につながるものであると確信しています。そして、二十一世紀に、核兵器のない平和な世界、環境破壊のない美しい自然を愛する

子孫に共有の財産として残すことが、わたしのいま最も切望していることです。

(清水寺勸学局長)

## 「51原爆展パネルを製作して」中間報告

蓮 佛 亨

ある。

昨年一二月中旬、「原爆展・掘り起こしの会」の川合葉子女史が、一九五一年(昭二六)年七月に丸物百貨店で開催した「原爆展」のパネル製作のことでヒヤリングにみえた。

京工大・建築学科三年生の時、クラス全員(28名)の賛同、協力を得て製作したのは確かである。それまで革新的なことにはなかなか同意しなかった三分の一の人、中間の立場を取る三分の一の人と、三つに別れたクラスだったが、パネル製作のメニュー紙を見て、核の恐ろしさを知り、このことでは全員が賛同し、製作に応じてくれた。一九四五年八月六日、九日広島、長崎に原爆が投下され以来、六年ぶりに日本で初めてその恐るべき内容をわかりやすく説明しうるパネルを製作したので

と懇談、交流を重ねたが、その時、原爆の脅威をスライドで映し説明した。村民は驚いた。三年前に製作したパネルの内容が、その中に生きされていた。

一九五五年(昭三三)年、広島に於て第一回原水爆禁止世界大会が開催され、運動の起りは東京都杉並区のお母さんがたの原爆反対署名運動が始まりであるとされる。しかし京都に於いては世界大会開催の四年前に既に説明用パネルを製作し、日本列島縦断展示会を実行していたのである。

新制大学二年生、20才で、京工大自治会紫叢会を設立し、代表して府学連に出ていた。翌年21才、京大医学部のソ医研メンバーを中心とする医学生によってパネルの製作メニューが作成された。府学連を通じて手渡されて京工大建築科三年生の製図室に持ち込まれ、企画、製作されたのである。24才、西山研・調査団を受け止め、大会に出席した。その後、分裂策動と闘う第10回大会、一九六四年(大阪・京都)が四たび目の出席

翌翌年大学を卒業して、火災復興を始めたばかりの鳥取市に就職した。京大西山卯三先生を团长とする鳥取県東部農山漁村住宅調査団は一九五四(昭二九)年來鳥取し、現地に於ける受け入れ体制を組み生家をも宿とした。調査団は夜の時間を利用して村民、青年団

学生時代の四〇年前に原爆パネルの製作を組織、製作したこと

34才である。

頭にして、社会人となつて平和運動にも関つてきました。世界の平和運動を勧進主義によつてねじまげ、妨害さえしてきたソ連邦解体のあつた今日、歴史の本流の中を生き抜いて、成長させてもらつたことは、還暦を経た今、感無量である。

(建築家 れんぶつ・とおる)

### 昭和初期、京都の染色労働運動

昨年六月の総会に出席された石川・

小松市の村中嘉明氏は、会場で枝浪真太郎氏と、ともに昭和初期京都での染色労働運動に加わったことを話し合われました。のち、「燎原」七三号所載の枝浪さんの「自伝」を読んでの感想文が寄せられました。

× × ×

前略、九月五日付けのお葉書拝見しました。早速、「燎原」七三号を読んでみまして、小生は毎号送つて頂きながら、忙しさに気どられて、充分読んでいなかつたことに気付きました。そして早速読みなおしてみました。枝浪さんは旧友クラブにも参加されて居りますが、私は例会には毎年参加して

いませんし、枝浪さんもきちっと参加されて居ないようでお会いした記憶がありません。それでも二条油小路の日比野誠吉友禅工場に昭和六年に働いておられたとのことです、当時は染労のオルグの菅野富次が「戦旗」読者会等を組織したり工賃の値上げ闘争等をして、特高の干渉で工場を去つた後で、工場内では反動の嵐の真っ最中だった頃で、枝浪氏は働いておられたかどうか記憶はありません。勿論当時の私は徒弟だったので、職人さんの顔は一々おぼえて居ませんが。

次に柳沢治郎左エ門は全評の書記になつたのは、私が京都を去つたあとで、当時松尾喬は現役で入當していたと思う。南善造は全評の執行委員や染労の委員長を長くしていた。

次に柳沢治郎左エ門は全評の書記になつたのは、私が京都を去つたあとで、当時松尾喬は現役で入當していたと思う。南善造は全評の執行委員や染労の委員長を長くしていた。

服部岩蔵とは二、三回あつたことがあります。氏は「正進会」と呼ぶまやかし団体を組織し、後に菅原職工組合と名を変えて総同盟の旗下に参加していた。

次に白田銀市氏ですが、私は彼氏とは合法的に最も親密にしていました。文学好きの奥さんに「赤旗」等非法の文書を保管して貰つたこともあります。渡部徹編著の「京都地方労働運動史」に私の名が載っているのは、白田氏の証言だと今でも思っています。奥さんや息子さんが不幸な死に方をされたことを後から聞いて断腸の思いをしました。白田氏が後程、入院されてるとき、「煙」の児玉誠氏に案内して頂いて見舞いに行って下さいました。

枝浪さんの自伝?についての感想は以上です。枝浪真太郎さんによろしくお伝え下さい。おわり

（一九九一年九月一三日記）

村中嘉明

なお村中さんは北陸地方の社会運動史の資料発掘につとめられ、九二年一月、昭和初期新潟県で農民運動に活動した佐藤彦七、同じ時代石川県の文学運動に参加した加藤秀雄の「遺稿集」を出版された。（ユニタ書舗、一五四五円）

「燎原」八二号をお届けします。

「従軍慰安婦」、「強制連行」など、戦前日本の植民地支配の史実解明の問題が、大きな外交問題、社会問題となっています。「治安維持法」や戦前、戦後の強権支配の実態と、それに批判・抵抗した国民の闘いの軌跡は、もっと明らかにされる必要があります。『過去の歴史』が今日現在の問題であることが、人々に実感されつつあります。

「証言・京都の民主運動史」充実のため、会員の皆さんの一層のご投稿お願ひします。

編集担当の奥田修三（宇治市広野町寺山一七一二五七）、湯浅貞夫（京都府船井郡日吉町保野田）の両名のいすれかに、ご連絡下さい。